

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3184604号
(U3184604)

(45) 発行日 平成25年7月4日 (2013.7.4)

(24) 登録日 平成25年6月12日 (2013.6.12)

(51) Int.Cl.

B 6 5 D 5/42 (2006.01)

F I

B 6 5 D 5/42

B

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 実願2013-2325 (U2013-2325)
(22) 出願日 平成25年4月24日 (2013.4.24)(73) 実用新案権者 391019500
朝日印刷株式会社
富山県富山市大手町三番九号
(74) 代理人 100095430
弁理士 廣澤 勲
(72) 考案者 渡辺 信介
富山県富山市大手町3番9号 朝日印刷株
式会社内
(72) 考案者 中道 薫
富山県富山市大手町3番9号 朝日印刷株
式会社内

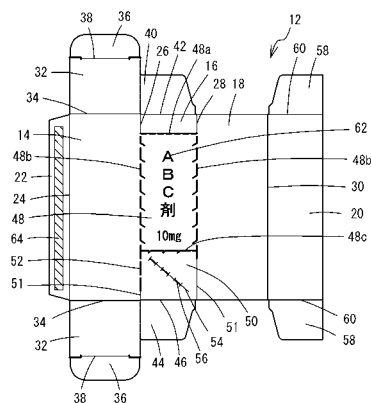
(54) 【考案の名称】 包装用箱

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】簡単な構造で収容物を説明する表示部を側面に設けるとともに、表示部を簡単に取り外して在庫の管理等に利用できる包装用箱を提供する。

【解決手段】一枚のブランクシートから一体的に打ち抜かれた箱体形成片12から成り、箱体形成片12には、互いに平行に接続され筒体に組み立てられる側面14、16、18、20を有し、側面16には表示部48を備える。表示部48の表面には、収容物についての情報を示す表示事項62が印刷されている。表示部48は、破断線48a、48b、48cで囲まれ、破断線48cに隣接して押込部50を備える。押込部50には、表示部48との間の破断線48cと交差する内側折曲線54が形成されている。

【選択図】図3



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

一枚のブランクシートから一体的に打ち抜かれた箱体形成片から成り、前記箱体形成片には、互いに平行に接続され筒体に組み立てられる側面が設けられ、前記側面には表示部が設けられ、前記表示部の表面には収容物についての情報を示す表示事項が印刷されて設けられ、前記表示部は破断線で囲まれて切り離し可能に設けられ、前記表示部の前記破断線の一方に隣接して押込部が設けられ、前記押込部は、前記破断線と、前記破断線に連続する周縁折曲線で囲まれて周囲と区切られ、前記押込部には前記表示部との間の破断線に交差する内側折曲線が設けられていることを特徴とする包装用箱。

【請求項 2】

前記表示部の互いに平行な一対の前記破断線は、前記側面の折罫線の延長線上に位置している請求項 1 記載の包装用箱。

【請求項 3】

前記表示部は一つの前記側面と隣接する他の側面に接して設けられ、前記押込部は一対の側面同士で作られる角部を超えて前記隣接する側面に達して設けられ、前記表示部と前記押込部の間の破断線は、前記表示部の外側に延出し、前記一対の側面同士で作られる角部を超えて隣接する側面に達して設けられている請求項 2 記載の包装用箱。

【請求項 4】

前記表示部は前記箱体形成片の一側面内に形成され、前記押込部は、前記表示部が形成された側面に接続する側面と前記表示部との間に設けられている請求項 1 記載の包装用箱。

【請求項 5】

前記押込部の周縁折曲線は、破断線である請求項 1 乃至 4 のいずれか記載の包装用箱。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

この考案は、取り外し可能な表示部が一体に設けられ、表示部には収容物に関する情報が印刷されている包装用箱に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来、商品を収容して保管や陳列を行う包装用箱は、箱体表面に収容物の名称や特性についての情報等が印刷されたものがある。そして、箱体表面に印刷された情報を利用するため、箱体本体の一部を情報が印刷された部分を囲んで切断して表示部として利用するものがある。例えば、特許文献 1 に開示されている包装容器は、複数の側面から成り、そのうちの少なくとも一面が開封部を有する開封面で、前記開封面と異なる面の少なくとも一面が外側片及び内側片からなる二重構造であり、外側片には内容物情報が印刷され、外側片の一部または全部が切除されるように、内容物情報の周囲に切除部が構成されている。切除部を囲む切断線にはタブが連続して設けられ、容易に切断線を切断して取り外すことができる。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】実用新案登録第 3 1 7 2 0 9 9 号公報

【考案の概要】**【考案が解決しようとする課題】****【0004】**

上記背景技術の場合、外側片及び内側片からなる二重構造とするために、箱体を形成する 4 個の側面と、糊付をするための折返片の他に、情報カードが設けられた外側片が設けられている。このため、ブランクシートの使用面積が広くなり、また糊を付ける面積や箇

10

20

30

40

50

所が多くなり、組立工程が面倒でコストがかかるものである。しかも、切除部を囲む切断線に連続するタブは、側面の端部に設けられ側面の端部よりも外側に突出して設けられているため、箱体を組み立てた時に側面同士の角部からわずかに外側に突出するため、他の部材に引っ掛かって折り曲げられたり切れたりして、傷みやすいものである。また不用意に切断線が切断される恐れもある。

【 0 0 0 5 】

この考案は、上記背景技術の問題点に鑑みてなされたものであり、簡単な構造で収容物を説明する表示事項が設けられた表示部を側面に設けることができ、表示部を簡単に取り外して在庫の管理等に利用することができる包装用箱を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

10

【 0 0 0 6 】

本考案は、一枚のブランクシートから一体的に打ち抜かれた箱体形成片から成り、前記箱体形成片には、互いに平行に接続され筒体に組み立てられる側面が設けられ、前記側面には表示部が設けられ、前記表示部の表面には収容物についての情報を示す表示事項が印刷されて設けられている包装用箱である。前記表示部は破断線で囲まれて切り離し可能に設けられ、前記表示部の前記破断線の一方に隣接して押込部が設けられている。そして、前記押込部は、前記破断線と、前記破断線に連続する周縁折曲線で囲まれて周囲と区切られ、前記押込部には前記表示部との間の破断線に交差する内側折曲線が設けられている包装用箱である。前記表示部の互いに平行な一対の前記破断線は、前記側面の折罫線の延長線上に位置している。前記破断線は、ミシン線、ジッパー線、半切り線等である。

20

【 0 0 0 7 】

前記表示部は一つの前記側面と隣接する他の側面に接して設けられ、前記押込部は、前記一対の側面同士で作られる角部を超えて前記隣接する側面に達して設けられ、前記表示部と前記押込部の間の破断線は、前記表示部の外側に延出し、前記一対の側面同士で作られる角部を超えて隣接する側面に達して設けられている。

【 0 0 0 8 】

前記表示部は前記箱体形成片の一側面内に形成され、前記押込部は、前記表示部が形成された側面に接続する側面と前記表示部との間に設けられているものである。さらに、前記押込部の周縁折曲線は、破断線でもよい。

【考案の効果】

30

【 0 0 0 9 】

本考案の包装用箱は、簡単な構造で収容物を説明する表示事項が設けられた表示部を側面に設けることができ、表示部を簡単に取り外して在庫の管理等に利用することができる。さらに、表示部に隣接して押込部が設けられ、押込部を押して箱体の内側に押し込むと表示部と押込部の間に隙間が生じるため、この隙間に指を差し込み、表示部を引き起こすことにより簡単に箱体本体から切り離すことができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 0 】

【図 1】この考案の第一実施形態の包装用箱の斜視図である。

【図 2】この考案の第一実施形態の包装用箱の使用状態を示す斜視図である。

40

【図 3】この考案の第一実施形態の包装用箱の展開図である。

【図 4】この考案の第二実施形態の包装用箱の斜視図である。

【図 5】この考案の第二実施形態の包装用箱の使用状態を示す斜視図である。

【図 6】この考案の第二実施形態の包装用箱の展開図である。

【図 7】この考案の第三実施形態の包装用箱の斜視図である。

【図 8】この考案の第三実施形態の包装用箱の使用状態を示す斜視図である。

【図 9】この考案の第三実施形態の包装用箱の展開図である。

【図 10】この考案の第四実施形態の包装用箱の斜視図である。

【図 11】この考案の第四実施形態の包装用箱の展開図である。

【考案を実施するための形態】

50

【 0 0 1 1 】

以下、この考案の実施形態について図面に基づいて説明する。図 1 ~ 図 3 はこの考案の第一実施形態を示すもので、この実施形態の包装用箱 1 0 は、紙製等の一枚のブランクシートを打ち抜いて形成された箱体形成片 1 2 を組み立てて設けられている。

【 0 0 1 2 】

図 3 は、箱体形成片 1 2 を表面から見た展開図であり、箱体形成片 1 2 は、側面 1 4 , 1 6 , 1 8 , 2 0 が、互いに平行に接続して形成されている。側面 1 4 , 1 6 , 1 8 , 2 0 は、接続方向と直交する幅方向の長さは同じ長さであり、それと直交する接続方向の長さは側面 1 4 , 1 8 が少し長くて互いにほぼ等しく、側面 1 6 , 2 0 がわずかに短くて互いにほぼ等しい。側面 1 4 の側縁部には、包装用箱 1 0 の組立状態で側面 2 0 の裏面に糊付けされる糊付片 2 2 が設けられている。そして、糊付片 2 2、側面 1 4 , 1 6 , 1 8 , 2 0 は、各々折罫線 2 4 , 2 6 , 2 8 , 3 0 で区切られている。

10

【 0 0 1 3 】

側面 1 4 の、側面同士の接続方向に対して直角な方向の一对の端部には、矩形の蓋片 3 2 が折罫線 3 4 で区切られて各々設けられている。蓋片 3 2 の折罫線 3 4 と反対側の端部には、さらに差込片 3 6 が折罫線 3 8 で区切られて設けられている。

【 0 0 1 4 】

側面 1 6 の、側面同士の接続方向に対して直角な方向の一方の端部には、台形状のフラップ 4 0 が折罫線 4 2 で区切られて各々設けられている。側面 1 6 の、折罫線 4 2 と反対側の端部には、フラップ 4 0 と同形のフラップ 4 4 が折罫線 4 6 で区切られて各々設けられている。

20

【 0 0 1 5 】

側面 1 6 内には表示部 4 8 が設けられている。表示部 4 8 は、折罫線 2 6 , 2 8 に隣接する矩形であり、折罫線 4 2 に対して平行で折罫線 4 2 からわずかに離れた位置に設けられ折罫線 2 6 , 2 8 に達する破断線であるミシン線 4 8 a と、ミシン線 4 8 a の両端部から折罫線 2 6 , 2 8 と一致して、折罫線 4 2 の反対側の折罫線 4 6 に向かって延出した破断線である一对のジッパー線 4 8 b と、ジッパー線 4 8 b の折罫線 4 6 から離れた端部同士を連結し折罫線 4 6 に対して平行に位置した破断線であるジッパー線 4 8 c で囲まれた長方形である。折罫線 4 6 とジッパー線 4 8 c の間隔は、他方の折罫線 4 2 とミシン線 4 8 a の間隔よりも長く設けられている。

30

【 0 0 1 6 】

側面 1 6 の、ジッパー線 4 8 c と折罫線 4 6 の間の部分は、矩形の押込部 5 0 として形成されている。押込部 5 0 は、一对のジッパー線 4 8 b の延長線上に位置する周縁折曲線 5 1 が各々設けられて周囲と区切られている。周縁折曲線 5 1 の、側面 1 4 に隣接する方には、ジッパー線 4 8 c に連続する切込線 5 2 が設けられている。押込部 5 0 の中心には、ジッパー線 4 8 c と切込線 5 2 で作られた角部を分割する対角線に沿って内側折曲線 5 4 が設けられている。内側折曲線 5 4 には、折れやすいように破断線 5 6 が設けられている。

【 0 0 1 7 】

側面 2 0 の、側面同士の接続方向に対して直角な一对の端部には、台形状のフラップ 5 8 が折罫線 6 0 で区切られて各々設けられている。

40

【 0 0 1 8 】

表示部 4 8 には、収容物について説明する表示事項 6 2 が印刷されている。表示事項 6 2 は、文字や絵等で形成され、押込部 5 0 にも押すことを示す文字等が印刷されてもよい。収容物が医薬品の場合、商品名や製造番号等が印刷される。

【 0 0 1 9 】

次に、この実施形態の包装用箱 1 0 の組立方法の一例について説明する。なお、ここでは図 3 が包装用箱 1 0 の箱体形成片 1 2 の表面を見たものであり、箱体形成片 1 2 の表面が凸になる折り方を正折り、そして裏面が凸になる折り方を逆折りと称する。

【 0 0 2 0 】

50

まず、糊付片 22 の表面に、糊 64 を塗布する。そして、折罫線 26 を正折りし、次に折罫線 30 を正折りする。これにより、側面 20 の裏面に糊 64 により糊付片 22 が糊付けされる。これにより折り畳み状態となり、この状態で箱体形成片 12 による折り畳み状態の包装用箱 10 が出荷される。

【0021】

次に、収容物を収容し包装する工場等において、折罫線 24, 26, 28, 30 を各々 90° に正折りして四角形の箱体にする。箱体の一方の端部の折罫線 46, 60 でフラップ 44, 58 を正折りし、折罫線 34 で蓋片 32 を 90° に正折りし、差込片 36 を折罫線 38 で正折りする。このとき、差込片 36 を側面 18 の裏面に差し込み、係止し、一方の端部の開口を閉鎖する。次に、組み立てられた側面 14, 16, 18, 20 と蓋片 32 から成る箱体の内側に収容物を入れ、同様の工程で他方の端部に蓋片 32 を係止して開口を閉鎖する。これで図 1 に示すように組み立てが完了する。

【0022】

次に、包装用箱 10 の使用方法について説明する。包装用箱 10 に入れられた薬剤等の商品を棚等に置いて在庫等の管理をする場合、商品である収容物の内容を表示するために、表示部 48 を切り離して棚のフレーム材等に貼り付ける。切り離す方法は、まず押込部 50 を押してジッパー線 48c と切込線 52 を切断し、内側折曲線 54 を押して逆折りしながら、押込部 50 のジッパー線 48c と切込線 52 で囲まれた角部を包装用箱 10 の中側へ押し込む。この時、図 2 に示すように周縁折曲線 51 と折罫線 46 は、90° 以上に正折りされ、表示部 48 と押込部 50 の間に隙間が生じる。この隙間に指を差し込み、表示部 48 を引き起こし、一对のジッパー線 48b が切断され、次にミシン線 48a が切断され、表示部 48 が箱体本体から切り離される。

【0023】

この実施形態の包装用箱 10 によれば、簡単な構造で、収容物を説明する表示事項 62 が設けられた表示部 48 を一体に設けることができる。これにより、薬剤等の管理におけるミスを防ぎ、薬剤等の商品の使用の安全性を高めることができる。しかも、組立工程が簡単で、コストが安価であり、表示部 48 はミシン線 48a、ジッパー線 48b, 48c で箱体本体と区切られ、簡単に取り外して薬剤等の商品を置いた棚等に貼り付けて、在庫の管理等を行うことができる。

【0024】

その他、この実施形態の包装用箱 10 は、押込部 50 が大きく形成され、押し込む簡単な操作でジッパー線 48c と切込線 52 が切断され、また内側折曲線 54 を折ることで、表示部 48 との隙間を大きくすることができ、指を差し込みやすくすることができる。箱体の角部に表示部 48 を保持するためのタグ等が突出していないため、他の部材にぶつかって傷んだり不用意に各ジッパー線が切断されることがなく安全である。

【0025】

次に、この考案の第二実施形態について図 4 ~ 図 6 に基づいて説明する。なお、ここで、上記実施形態と同様の部材は同様の符号を付して説明を省略する。この実施形態の包装用箱 66 は、紙製等の一枚のブランクシートを打ち抜いて形成された箱体形成片 68 を組み立てて設けられている。

【0026】

図 6 は、箱体形成片 68 を表面から見た展開図であり、箱体形成片 68 は、側面 14, 16, 18, 20 が、互いに平行に接続して形成されている。側面 14 の側縁部には糊付片 22 が設けられている。そして、糊付片 22、側面 14, 16, 18, 20 は、各々折罫線 24, 26, 28, 30 で区切られている。

【0027】

側面 16 内には表示部 48 が設けられている。表示部 48 は、折罫線 26, 28 に隣接する矩形であり、折罫線 42 に対して平行で折罫線 42 からわずかに離れた位置に設けられ折罫線 26, 28 に達するミシン線 48a と、ミシン線 48a の両端部から折罫線 26, 28 と一致して、折罫線 42 の反対側の折罫線 46 に向かって延出する一对のジッパー

10

20

30

40

50

線 4 8 b と、ジッパー線 4 8 b の折罫線 4 6 から離れた端部同士を連結し折罫線 4 6 に対して平行に位置するジッパー線 4 8 c で囲まれた長方形である。折罫線 4 6 とジッパー線 4 8 c の間隔は、他方の折罫線 4 2 とミシン線 4 8 a の間隔よりも長く設けられている。

【 0 0 2 8 】

側面 1 6 の、表示部 4 8 の折罫線 4 6 側には、ジッパー線 4 8 c に隣接する部分に押込部 7 0 が設けられている。押込部 7 0 は、ジッパー線 4 8 c に対して平行方向が長い長方形に形成されている。ジッパー線 4 8 c の中間付近から、切断部分が長い破断線 7 2 となり、破断線 7 2 の先端は折罫線 2 6 を通過して側面 1 4 に突出している。押込部 7 0 は、破断線 7 2 と、破断線 7 2 に対して平行に位置する破断線 7 4 と、破断線 7 2 , 7 4 の両端部同士を結ぶ直線の周縁折曲線 7 6 で囲まれて周囲と区切られている。破断線 7 4 は、ジッパー線 4 8 c と折罫線 4 6 の中間よりもわずかにジッパー線 4 8 c に近い位置に設けられている。押込部 7 0 には、破断線 7 2 に対して直角に交差する内側折曲線 7 8 , 8 0 が設けられ、内側折曲線 7 8 は側面 1 4 との間を区切る折罫線 2 6 に一致し、内側折曲線 8 0 は周縁折曲線 7 6 近傍に設けられている。

10

【 0 0 2 9 】

表示部 4 8 には、収容物について説明する表示事項 6 2 が印刷されている。表示事項 6 2 は、文字や絵等で形成され、押込部 7 0 にも押すことを示す文字等が印刷されてもよい。

【 0 0 3 0 】

次に、この実施形態の包装用箱 6 6 の組立方法の一例について説明する。なお、ここでは図 6 が包装用箱 6 6 の箱体形成片 6 8 の表面を見たものであり、箱体形成片 6 8 の表面が凸になる折り方を正折り、そして裏面が凸になる折り方を逆折りと称する。

20

【 0 0 3 1 】

まず、糊付片 2 2 の表面に、糊 6 4 を塗布する。そして、折罫線 2 6 を正折りし、次に折罫線 3 0 を正折りする。これにより、側面 2 0 の裏面に糊 6 4 により糊付片 2 2 が糊付けされる。これにより折り畳み状態となり、この状態で箱体形成片 6 8 による折り畳み状態の包装用箱 6 6 が出荷される。

【 0 0 3 2 】

次に、収容物を収容し包装する工場等において、折罫線 2 4 , 2 6 , 2 8 , 3 0 を各々 9 0 ° に正折りして四角形の箱体にする。箱体の内側に収容物を入れ、折罫線 4 2 , 4 6 , 6 0 でフラップ 4 0 , 4 4 , 5 8 を正折りし、折罫線 3 4 で蓋片 3 2 を 9 0 ° に正折りして開口を閉鎖する。これで図 4 に示すように組み立てが完了する。

30

【 0 0 3 3 】

次に、包装用箱 6 6 の使用方法について説明する。表示部 4 8 を切り離すときは、まず押込部 7 0 を押して破断線 7 2 , 7 4 を切断し、一对の周縁折曲線 7 6 を正折りし、このとき内側折曲線 8 0 は逆折りされ、押込部 7 0 は箱体の内側に L 字形に折り曲げられてくぼむ。これにより図 5 に示すように表示部 4 8 と押込部 7 0 の間に隙間が生じる。この隙間に指を差し込み、表示部 4 8 を引き起こし、ジッパー線 4 8 c が切断され、一对のジッパー線 4 8 b が切断され、次にミシン線 4 8 a が切断され、表示部 4 8 が箱体本体から切り離される。

40

【 0 0 3 4 】

この実施形態の包装用箱 6 6 によれば、上記実施の形態と同様の効果を有するものである。押込部 7 0 は折罫線 2 6 を通過して側面 1 4 , 1 6 にわたって設けられているため、押し込んだ時に折罫線 2 6 の角部が切り欠かれて大きく変位して表示部 4 8 との隙間が大きく形成することができ、指を差し込みやすくすることができる。

【 0 0 3 5 】

次にこの考案の第三実施形態について図 7 ~ 図 9 に基づいて説明する。なお、ここで、上記実施形態と同様の部材は同様の符号を付して説明を省略する。この実施形態の包装用箱 8 2 は、紙製等の一枚のブランクシートを打ち抜いて形成された箱体形成片 8 4 を組み立てて設けられている。

50

【 0 0 3 6 】

図 9 は、箱体形成片 8 4 を表面から見た展開図であり、箱体形成片 8 4 は、側面 1 4 , 1 6 , 1 8 , 8 6 が、互いに平行に接続して形成されている。側面 8 6 の側縁部には糊付片 8 8 が設けられている。そして、側面 1 4 , 1 6 , 1 8 , 8 6、糊付片 8 8 は、各々折罫線 2 6 , 2 8、及び折罫線を兼ねるジッパー線 8 9 , 9 0 で区切られている。

【 0 0 3 7 】

側面 1 4 の、側面同士との接続方向に対して直角な方向の一方の端部には、矩形の上蓋片 1 1 4 が折罫線 1 1 6 で区切られて設けられ、上蓋片 1 1 4 の折罫線 1 1 6 と反対側の端部には、さらに差込片 1 1 8 が折罫線 1 2 0 で区切られて設けられている。側面 1 4 の、折罫線 1 1 6 と反対側の端部には、矩形の外側底蓋片 1 2 2 が折罫線 1 2 4 で区切られて設けられている。

10

【 0 0 3 8 】

側面 1 6 の、折罫線 1 1 6 に連続する端部には、台形状の上フラップ 1 2 6 が折罫線 1 2 8 で区切られて設けられている。側面 1 6 の、折罫線 1 2 8 と反対側の端部には、外側底蓋片 1 2 2 よりも小形の長方形の底フラップ 1 3 0 が折罫線 1 3 2 と区切られて設けられている。

【 0 0 3 9 】

側面 1 8 の、折罫線 1 2 8 に連続する端部には、開封用のコの字形の破断線 1 3 4 が設けられている。側面 1 8 の反対側の端部には、外側底蓋片 1 2 2 よりも小形の内側底蓋片 1 3 6 が折罫線 1 3 8 で区切られて設けられている。

20

【 0 0 4 0 】

側面 8 6 の、側面 1 8 の破断線 1 3 4 を有する端部に連続する端部には、台形状の上フラップ 9 2 がミシン線 9 4 で区切られて設けられている。側面 8 6 の、ミシン線 9 4 と反対側の端部には、底フラップ 1 3 0 とほぼ同じ大きさの長方形である底フラップ 9 6 が折罫線 9 8 で区切られて各々設けられている。

【 0 0 4 1 】

側面 8 6 内には表示部 1 0 0 が設けられている。表示部 1 0 0 は、ジッパー線 8 9 , 9 0、ミシン線 9 4 で囲まれており、ミシン線 9 4 と反対側の端部は、折罫線 9 8 に対して平行に位置し折罫線 9 8 から平行に離れたミシン線 1 0 1 が設けられ、周囲と区切られている。

30

【 0 0 4 2 】

側面 8 6 の、表示部 1 0 0 の折罫線 9 8 側の部分、即ちミシン線 1 0 1 と折罫線 9 8 の間の部分が、押込部 1 0 2 である。押込部 1 0 2 は、ミシン線 1 0 1 に対して平行な方向が長い長方形に形成されている。ミシン線 1 0 1 のジッパー線 8 9 側の端部は、ジッパー線 8 9 を通過して側面 1 8 に突出し先端は押込部 1 0 2 に近づくように湾曲して折り返され、ミシン線 1 0 1 の他方の端部はジッパー線 9 0 に交差して連続している。押込部 1 0 2 は、ミシン線 1 0 1 と、ミシン線 1 0 1 の先端に連続して折罫線 9 8 の端部に達する周縁折曲線 1 0 4 と、折罫線 9 8 と、ジッパー線 9 0 の延長線上に位置する周縁折曲線 1 0 6 で囲まれて周囲と区切られている。押込部 1 0 2 には、ミシン線 1 0 1 に交差する 3 本の内側折曲線 1 0 8 , 1 1 0 , 1 1 2 が設けられている。内側折曲線 1 0 8 はジッパー線 8 9 の延長線上に一致して設けられ、内側折曲線 1 1 0 は内側折曲線 1 0 8 と折罫線 9 8 の交点とミシン線 1 0 1 を結びミシン線 1 0 1 に近づくに従い内側折曲線 1 0 8 から離れる所定の角度で傾斜して設けられ、内側折曲線 1 1 2 は、周縁折曲線 1 0 6 と折罫線 9 8 の交点とミシン線 1 0 1 を結び、内側折曲線 1 1 0 と線対象となる角度で傾斜して設けられている。

40

【 0 0 4 3 】

表示部 1 0 0 には、収容物について説明する表示事項 1 4 6 が印刷されている。表示事項 1 4 6 は、文字や絵等で形成され、押込部 1 0 2 にも押すことを示す文字等が印刷されてもよい。

【 0 0 4 4 】

50

次に、この実施形態の包装用箱 8 2 の組立方法の一例について説明する。なお、ここで図 9 が包装用箱 8 2 の箱体形成片 8 4 の表面を見たものであり、箱体形成片 8 4 の表面が凸になる折り方を正折り、そして裏面が凸になる折り方を逆折りと称する。

【0045】

まず、糊付片 8 8 の表面に、糊 1 4 0 を塗布する。そして、ジッパー線 8 9 と内側折曲線 1 0 8 を正折りし、次に折罫線 2 6 を正折りする。これにより、側面 1 4 の裏面に糊 1 4 0 により糊付片 8 8 が糊付けされる。これにより折り畳み状態となり、この状態で箱体形成片 8 4 による折り畳み状態の包装用箱 8 2 が出荷される。

【0046】

次に、収容物を収容し包装する工場等において、折罫線 2 6 , 2 8 、ジッパー線 8 9 , 9 0 を各々 9 0 ° に正折りして四角形の箱体にする。外側底蓋片 1 2 2 の裏面に糊 1 4 2 を塗布し、折罫線 9 8 , 1 3 2 で底フラップ 9 6 , 1 3 0 を各々 9 0 ° に正折りし、次に折罫線 1 3 8 で内側底蓋片 1 3 6 を 9 0 ° に正折りし、さらに折罫線 1 2 4 で外側底蓋片 1 2 2 を 9 0 ° に正折りする。これにより外側底蓋片 1 2 2 の裏面に内側底蓋片 1 3 6 の表面が糊 1 4 2 により糊付けされ、底部が形成される。組み立てられた側面 1 4 , 1 6 , 1 8 , 8 6 と底部から成る箱体の内側に収容物を入れる。そして、側面 1 8 の裏面の破断線 1 3 4 の内側に、糊 1 4 4 を塗布し、ミシン線 9 4 、折罫線 1 2 8 で上フラップ 9 2 , 1 2 6 を各々 9 0 ° に正折りし、次に折罫線 1 1 6 で上蓋片 1 1 4 を正折りし、さらに折罫線 1 2 0 で差込片 1 1 8 を正折りして側面 1 8 の裏面に差し込み、糊 1 4 4 により差込片 1 1 8 の表面を側面 1 8 の破断線 1 3 4 の内側に糊付けし、上蓋部が形成される。これで図 7 に示すように組み立てが完了する。

【0047】

次に、包装用箱 8 2 の使用方法について説明する。表示部 1 0 0 を切り離すときは、まず押込部 1 0 2 を押してミシン線 1 0 1 を切断し、周縁折曲線 1 0 4 , 1 0 6 折罫線、9 8 を正折りする。このとき内側折曲線 1 0 8 , 1 1 0 , 1 1 2 は逆折りされ、押込部 1 0 2 は箱体の内側にくぼむ。これにより図 8 に示すように表示部 1 0 0 と押込部 1 0 2 の間に隙間が生じる。この隙間に指を差し込み、表示部 1 0 0 を引き起こし、ジッパー線 8 9 , 9 0 が切断され、上フラップ 9 2 とともに表示部 1 0 0 が箱体本体から切り離される。この後、上フラップ 9 2 が不要な場合は、ミシン線 9 4 で上フラップ 9 2 を分離する。

【0048】

この実施形態の包装用箱 8 2 によれば、上記各実施の形態と同様の効果を有するものである。側面 8 6 全面を表示部 1 0 0 と押込部 1 0 2 に区切って使用するため、表示部 1 0 0 の面積が広く、表示部 1 0 0 には多くの表示事項 1 4 6 を印刷することができ、情報量を増やすことができる。押込部 1 0 2 は押し易く、箱体の内側に大きくくぼみ、表示部 1 0 0 との間に大きな隙間を形成することができ、容易に表示部 1 0 0 を切り離すことができる。

【0049】

次に、この考案の第四実施形態について図 1 0 、図 1 1 に基づいて説明する。なお、ここで、上記実施形態と同様の部材は同様の符号を付して説明を省略する。この実施形態の包装用箱 1 5 0 は、紙製等の一枚のブランクシートを打ち抜いて形成された箱体形成片 1 5 2 を組み立てて設けられている。

【0050】

図 1 1 は、箱体形成片 1 5 2 を表面から見た展開図であり、箱体形成片 1 5 2 は、側面 1 4 , 1 6 , 1 8 , 2 0 が、互いに平行に接続して形成されている。側面 1 4 の側縁部には糊付片 2 2 が設けられている。そして、糊付片 2 2 、側面 1 4 , 1 6 , 1 8 , 2 0 は、各々折罫線 2 4 , 2 6 , 2 8 , 3 0 で区切られている。

【0051】

側面 1 6 内には、折罫線 4 2 から僅かに離れた位置に平行に設けられ折罫線 2 6 , 2 8 に両端部が接して形成された破断線であるミシン線 1 5 4 a と、ミシン線 1 5 4 a の両端部から折罫線 2 6 , 2 8 と一致して折罫線 4 6 側に延びて設けられ、折罫線 2 6 , 2 8 よ

10

20

30

40

50

りも短いミシン線 1 5 4 b , 1 5 4 c が設けられ、ミシン線 1 5 4 b , 1 5 4 c の他端部間をつなぎ、折罫線 4 6 から僅かに離れた位置に平行に設けられたミシン線 1 5 4 d が設けられている。ミシン線 1 5 4 a , 1 5 4 d 間には、ミシン線 1 5 4 c と平行であって折罫線 2 8 寄りの位置に、ミシン線の切り込みより僅かに長い切り込みの切込線 1 5 4 e が設けられている。ミシン線 1 5 4 c と切込線 1 5 4 e の中央部には、中央部同士を繋ぐ切込線 1 5 4 f が設けられている。

【 0 0 5 2 】

ミシン線 1 5 4 a , 1 5 4 b , 1 5 4 d 及び切込線 1 5 4 e で囲まれた長方形が、表示部 1 5 4 となる。表示部 1 5 4 内には、収容物について説明する表示事項 1 5 6 が印刷されている。表示部 1 5 4 に隣接して、ミシン線 1 5 4 c と切込線 1 5 4 e 間に、押込部 1 5 8 が設けられている。押込部 1 5 8 も、長方形に形成され、押込部 1 5 8 の両端部であってミシン線 1 5 4 a , 1 5 4 d の一部が、周縁折曲線として機能する。また、破断線 1 5 4 f が、押込部 1 5 8 の中央部に位置して、内側折曲線として機能する。

10

【 0 0 5 3 】

次に、この実施形態の包装用箱 1 5 2 の組立方法、及び使用方法是上記実施形態と同様である。表示部 1 5 4 を切り離すときは、まず押込部 1 5 8 の中央部を押して、切込線 1 5 4 e の中央部を切断し、押込部 1 5 8 の両端部の一对の周縁折曲線であるミシン線 1 5 4 a , 1 5 4 d の一部分を僅かに正折りする。このとき内側折曲線である切込線 1 5 4 f は逆折りされ、押込部 1 5 8 は箱体の内側に V 字形に折り曲げられてくぼむ。これにより表示部 1 5 4 と押込部 1 5 8 の間に隙間が生じる。この隙間に指を差し込み、表示部 1 5 4 を引き起こし、ミシン線 1 5 4 a , 1 5 4 d が切断され、さらに、ミシン線 1 5 4 b が切断され、表示部 1 5 4 が箱体本体から切り離される。

20

【 0 0 5 4 】

この実施形態の包装用箱 1 5 0 によれば、上記実施の形態と同様の効果を有するものである。押込部 1 5 8 が表示部 1 5 4 に長い範囲で隣接して設けられているため、押込部 1 5 8 を押し込んだ時に、切込線 1 5 4 e で確実に隙間が生じ、指を差し込みやすくすることができる。

【 0 0 5 5 】

なお、この考案は、上記各実施形態に限定されるものではなく、各側面や表示部、押込部の大きさや形状等、自由に変更可能であり、蓋片の構造等も自由に変更可能である。ジッパー線は切込線やミシン線でもよく、その逆でもよく、またブランクシートの厚みの半分を切断した半切り線等でもよく、円滑に切断できるものであればよい。

30

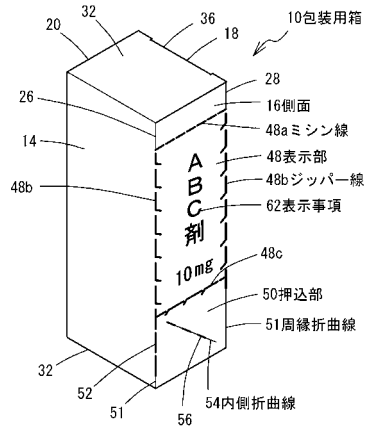
【 符号の説明 】

【 0 0 5 6 】

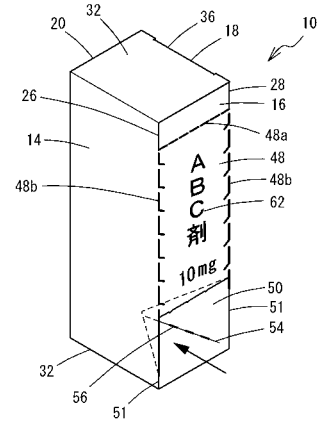
1 0 , 6 6 , 8 2 , 1 5 0 包装用箱
 1 2 , 6 8 , 8 4 , 1 5 2 箱体形成片
 1 4 , 1 6 , 1 8 , 2 0 , 8 6 側面
 2 2 , 8 8 糊付片
 4 8 , 1 0 0 , 1 5 4 表示部
 5 0 , 7 0 , 1 0 2 押込部
 6 2 , 1 4 6 表示事項
 4 8 a , 5 2 , 9 4 , 1 0 1 ミシン線
 4 8 b , 4 8 c , 8 9 , 9 0 ジッパー線
 5 1 , 7 6 , 1 0 4 , 1 0 6 周縁折曲線
 5 4 , 7 8 , 8 0 , 1 0 8 , 1 1 0 , 1 1 2 内側折曲線
 7 2 , 7 4 破断線

40

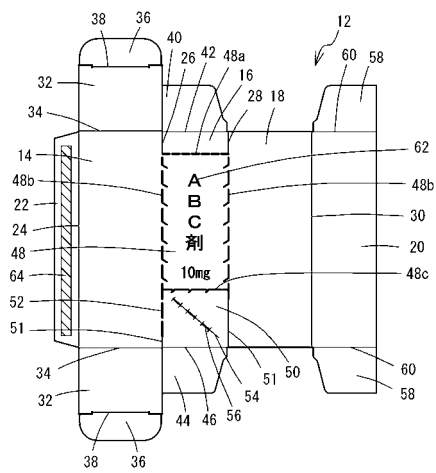
【図 1】



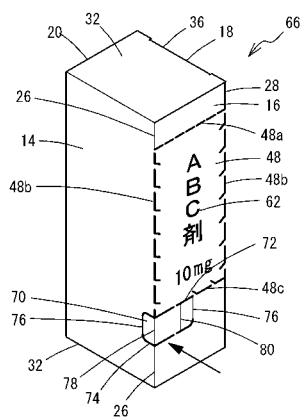
【図 2】



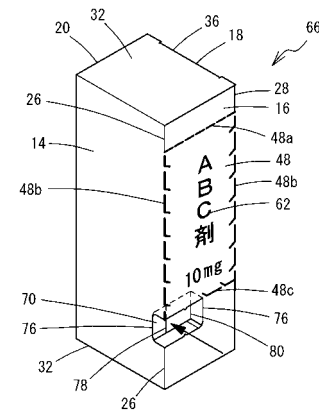
【図 3】



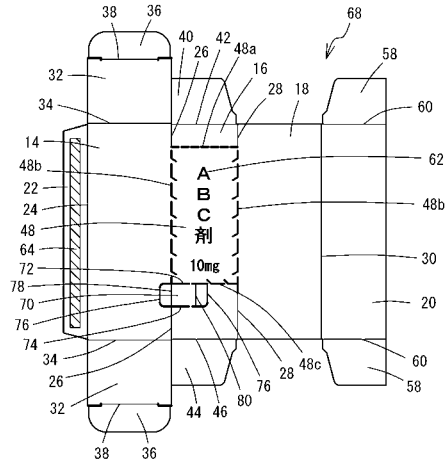
【図 4】



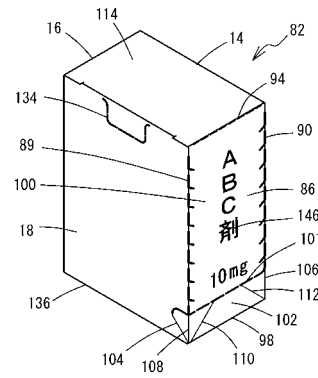
【図 5】



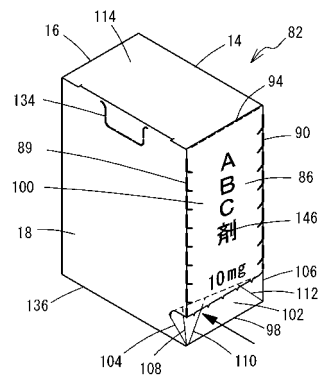
【図 6】



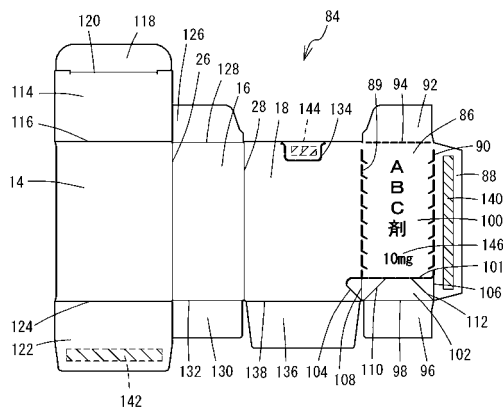
【図 7】



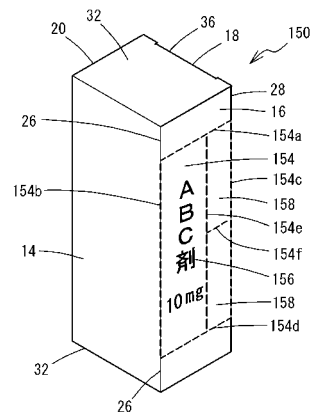
【図 8】



【図 9】



【図 10】



【図 11】

